資料７

小口巡回共同回収システム構築協議会　各分科会での検討事項（案）

C：分別排出手法検討分科会

現況調査

①　建設工事から排出されている建設廃棄物は何か？（種類毎、発生時期毎の量）

②　①で出ている建設廃棄物を排出事業者側でどこまで、どのように分別しているか？

③　分別された建設廃棄物は、それぞれどこに搬出されているのか？最終的にどのような形にリサイクルされているのか？

④　いわゆる「建設混合廃棄物」の中身は何か？

※これまでの調査データの確認からスタート
※平成１６年度分を調査
※土木工事、建築（新築）、建築（解体）など工種別に
※現場規模別に

問題点整理

⑤　④はどうしてさらに分別できないのか？どうしたら分別できるようになるのか？

⑥　③はどうして１００％リサイクルにならないのか？もっとリサイクル率を高めるためには？

→　どこまで分別可能か、どこまで（全体の〇％）リサイクルが可能か、の理論値を算出

→　論点の絞り込みを行う

比較案検討

⑦　建設混合廃棄物の最終処分量を減らすための分別方法について、複数案を立案
※リサイクルの観点から最大限分別する案も検討
※木材について、さらに細かく分別化する案も検討

⑧　①～③の結果を踏まえ、どのようなサイクルで廃棄物を収集するのが効果的か、現場での保管形態はどのようにしたら効果的か（分別容器の形態も含めて）、について複数案を立案

⑨　現場として求める「情報」は何かあるか？

A：システム運営・制度検討分科会

現況調査

①　現状の把握（中間処理施設、再資源化施設における受け入れ基準の実態等）

②　平成１４年度実証実験の結果等をレビューする。

問題点整理

③　現状の問題点整理

比較案検討

④　中央管理センターは、どこまで情報管理すべきなのか？（各現場毎の廃棄物の発生量、日時、運搬経路など）
※電子マニフェストの概要、活用可能性を踏まえつつ

⑤　共同集配場はどのように作るか？（何箇所設置するか、規模は）
※リサイクル施設の現状の立地状況と今後の設置計画を踏まえつつ

⑥　運搬ルートの形態は？（定期バスタイプか、デマンドバスタイプか）（現場工種毎に分別形態を変えるべきか）

⑦　その他を含めたシステム全体の複数案立案

B：情報化検討分科会

現況調査

①　平成１４年度実証実験の詳細をレビューする。
・中央管理システムでの情報管理の内容
・バーコードで管理した情報内容
・全体のコスト　　等

問題点整理

②　現状の問題点整理

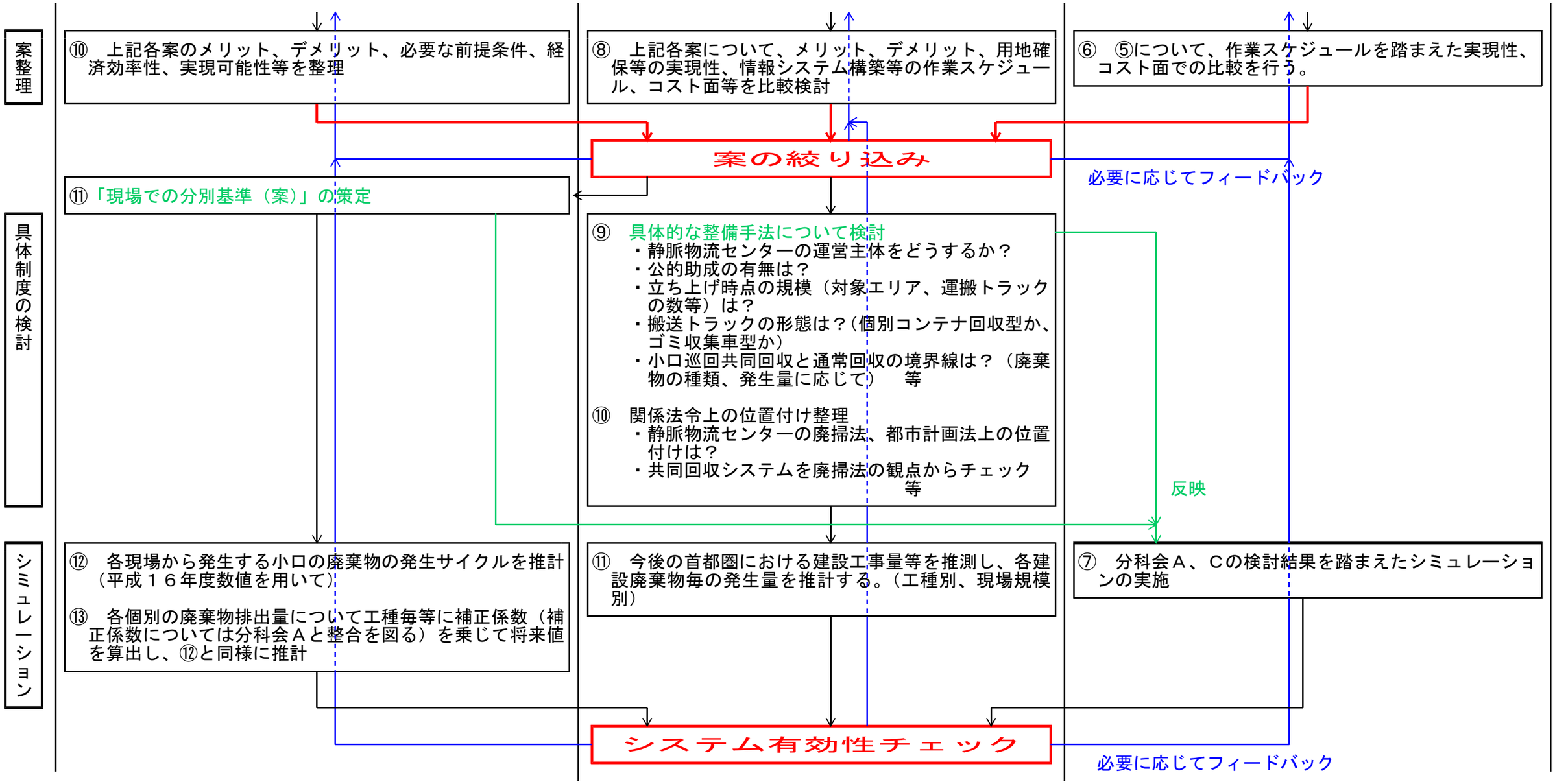
反映

比較案検討

③　分科会Ａ、Ｃのリクエスト以外に求められる条件の整理（現場毎の廃棄物発生量が入力されれば効率的な運搬経路を瞬時に判別するシステムなど）

④　①③以外に、安価で導入可能な有用なシステムがあるか整理

⑤　③④で与えられた条件に応じ、①のシステムを具体的にどのように改良するのか複数案を立案


案整理
⑩　上記各案のメリット、デメリット、必要な前提条件、経済効率性、実現可能性等を整理
⑧　上記各案について、メリット、デメリット、用地確保等の実現性、情報システム構築等の作業スケジュール、コスト面等を比較検討
⑥　⑤について、作業スケジュールを踏まえた実現性、コスト面での比較を行う。
案の絞り込み
必要に応じてフィードバック
具体制度の検討
⑪「現場での分別基準（案）」の策定
⑨　具体的な整備手法について検討
・静脈物流センターの運営主体をどうするか？
・公的助成の有無は？
・立ち上げ時点の規模（対象エリア、運搬トラックの数等）は？
・搬送トラックの形態は？（個別コンテナ回収型か、ゴミ収集車型か）
・小口巡回共同回収と通常回収の境界線は？（廃棄物の種類、発生量に応じて）　等
⑩　関係法令上の位置付け整理
・静脈物流センターの廃掃法、都市計画法上の位置付けは？
・共同回収システムを廃掃法の観点からチェック　等
反映
シミュレーション
⑫　各現場から発生する小口の廃棄物の発生サイクルを推計（平成１６年度数値を用いて）
⑬　各個別の廃棄物排出量について工種毎等に補正係数（補正係数については分科会Ａと整合を図る）を乗じて将来値を算出し、⑫と同様に推計
⑪　今後の首都圏における建設工事量等を推測し、各建設廃棄物毎の発生量を推計する。（工種別、現場規模別）
⑦　分科会Ａ、Ｃの検討結果を踏まえたシミュレーションの実施
システム有効性チェック
必要に応じてフィードバック